

平成27年度 学校評価結果の分析と改善に向けて

○達成度は、アンケート回答の Aあてはまる Bだいたいあてはまる の合計の割合。

○達成度目標は、80%以上に設定。(保15のみ90%以上)

◆豊かな心づくり

1 思いやりの心の育成

(1) 元気よくあいさつできる児童を育てる。

対象	アンケート項目	前期	後期
教1	挨拶の意義、方法について根気強く指導した。	100%	100%
児1	地域や学校で進んであいさつしている。	90%	95%
保1	子どもたちは、地域や学校で進んで挨拶している。	95%	92%
保2	家庭では、元気よくあいさつすることを子どもに指導している。	86%	89%

前期に引き続き、保護者、児童ともあいさつができているとした割合が高い。

保護者による家庭での取り組み意識も高く、地域の特徴として意識できれば、上級生から下級生へとつなげられる良き伝統となると考えられる。朝の玄関指導や集会活動で取り上げるなどして、さらに定着させる工夫をしたい。

(2) 思いやりの心を育てる縦割り班活動や集会活動に取り組む。

教2	縦割り班活動や集会活動を通して思いやりの心の育成に努めている。	100%	100%
児2	学級や縦割り活動で、相手の気持ちを考えて、優しい言葉で話し、仲良く活動している。	90%	90%
保3	お子さんは、優しい心で小さい子に接することができるようになってきている。	95%	97%

児童、保護者とも思いやりの心が育ってきていると感じている割合が高い。

年間を通じて、異年齢グループ、ペアでの活動を進めてきた成果があったと考えられる。

しかし、甘えからか、下級生の中に横柄な態度で上級生に接しがちな場面がみられることがあった。

児童間だけでなく、地域の大人との交流機会もつくり、立場を理解したコミュニケーション力の育成を進めたい。

2 教育相談の充実

(1) 児童生徒と触れ合う時間を増やし、きめ細かな対応を心がける。

教3	日常の対話により児童生徒の実態を把握するよう努め、きめ細かな対応を行っている。	100%	100%
児3	先生と、学習や生活についてよく話をしている。	62%	67%
児4	先生ははじめがないように気を配ってくれている。	95%	95%
保4	学校は児童を理解し、困っていることに対応してくれている。	97%	95%

前期に続き、教員と話をしているとした児童の割合が低い。「あったか週間」を設け、担任との個人面談を実施したが、まだまだ不十分である。「話していない」と答えた児童と意識して会話の機会を増やすことも必要かと考える。また、教科担任制を取り入れる中で、多くの教員の眼で得られる情報の共有に努め、チームとしての教育相談をすすめる。いじめ防止についての取組みは、児童、保護者とも高い評価となっている。乱暴な言動が見られた時に、「いじめはゆるさない」というはっきりとした指導を継続していく。

◆確かな学力づくり

1 楽しくよくわかる授業

(1) 授業時数の確保を心がけ、時間をかけた丁寧な指導を行う。

教4	楽しく分かりやすい授業を行うとともに、今まで以上に時間をかけるよう心がけている。	100%	100%
児5	先生は、楽しく分かりやすい授業をし、時間をかけて教えてくれる。	95%	97%
保5	学校は、一人ひとりを大切にしたい分かりやすい授業を行うなど、授業改善に取り組んでいる。	92%	92%

児童、保護者とも分かる授業に対する満足度が高かった。教科担任制、TT指導、個別指導等、個に応じた指導の取組みをさらにすすめていく。

後期に実施した、児童による授業評価を定期的の実施し、授業力の向上に生かしていく。

ユニバーサルデザインを取り入れた授業研究を継続し、分かる授業づくりを進めていく。

2 2学期制のメリットを生かした教育活動を実践する。

(1) 事前指導を丁寧に行い、長期休業を学期の途中として取り組むための効果的な手立てを講じる。

教5	長期休業を「学期の途中のもの」とし、休業中の支援を意図的・計画的に行っている。	100%	100%
児6	長期休業中は、計画的に宿題にとりくむことができた。	69%	92%
保6	わが子は、夏休みや冬休みの期間は計画的に課題に取り組んでいる。	68%	66%

児童と保護者の評価に大きな差が出ている。冬休みは、課題量が少なく、遅れが出ても取り返しが短時間でできるため、児童の評価が高くなったと考えられる。課題の提出状況は良い。

3 言語力、表現力の向上

(1) 読む、書く、表現する指導を通して、言語力の向上を図る。

教6	いしずえや授業の中で、言語力が向上するよう工夫をしている。	100%	100%
児7	いしずえの時間(読書・視写・百人一首・短作文)にしっかりと学習している。	95%	97%
児8	授業やいしずえを通して、読む・書く・発表する力がついてきていると思う。	85%	79%
保7	わが子は、読んだり・書いたり・表現したりする力が身につけてきている。	76%	79%

学習への取り組みについては、高い数値となっている。しかし、学力の向上については物足りなさを感じている。いしずえでのひとり学習でつけた力をつかい発表する場をより多くつくる努力をする。授業参観の機会では、自己の考えを発表したり、ディスカッションを取り入れるなどの学習活動を実施していく。

◆健康な体づくり

1 生活習慣の向上

(1) 生活点検や家庭学習の習慣づけにより、よりよい生活習慣の向上を図る。

教7	早寝・早起き、家庭学習の習慣化を図る指導に根気よく取り組んだ。	88%	100%
児9	早ね・早おきが、できている。	76%	69%
児10	宿題や進んで学習にしっかりと取り組んでいる。	79%	87%
保8	わが子は、早寝・早起き、習慣が身についている。	70%	63%
保9	わが子は、家庭学習の習慣が身についている。	84%	76%

早寝早起きの習慣について目標に達していない。早寝早起きの生活習慣が、なぜ大切なのか等、学級活動で取り上げるとともに、毎月、早寝早起きの日を設定する等、継続的な取り組みを工夫していく。

家庭学習では、児童評価は高いが、保護者の評価は低い。実際、宿題の提出状況は良い。促されないと宿題をはじめない等、自主的な部分にて課題がある。

家庭学習の取り組み状況について、アンケートで実態把握し、対策を練ることも必要。

2 安全、健康教育の推進

(1) 体育授業、業間活動、学校行事等を工夫し、運動量を確保し、体力の向上を図る。

教8	体育授業やチャレンジタイム等で、児童の運動に対する意欲を高め、運動量の確保に努力した。	100%	100%
児11	授業やチャレンジタイムで、めあてをもって、運動にいっしょうけんめい取り組んだ。	97%	92%
保10	学校は、体育やチャレンジタイム、マラソン大会等で、子どもの体力向上に取り組んでいる。	97%	100%

体力向上の取り組みは、高い満足度となっている。業間時の活動やチャレンジカードで自分の頑張りを記録していくことが、意欲付けにつながり成果となっている。

縄跳びでは、異学年のペアで励ましあいながらの取り組みをした。

体力づくりの効果が意識できるような工夫をし、もっと伸びたいとの意欲を高めていきたい。

(2) 自他を守り命を大切にし、安全に生活 できる子の育成を図る。

教 9	安全指導を通して、児童の安全意識を高めることに取り組んだ。	100%	100%
児 12	登下校や学校生活で、安全な行動ができています。	95%	92%
保 11	学校は、交通安全指導や悪天候時の対応など子どもの安全確保に取り組んでいる。	100%	100%

交通安全を中心に登下校の安全に関する事項では、高い満足度となっている。朝の街頭指導、下校時の指導、悪天候時のメール連絡等、継続していく。また、悪天候時の送迎等、家庭の対応もしっかりしている。また、初めて緊急時引き渡し訓練を実施したことも好評化につながっていると考えられる。今後も家庭、地域と連携協力した安全確保に努めていく。

◆家庭・地域との連携

1 家庭・地域と連携・協力しての教育活動を進める。

(1) テレビ・ゲーム・インターネットのルールの家庭での設定を促す。

教 11	子どものTV・ゲーム・インターネットのルールづくりについて、家庭と連携して取り組んでいる。	89%	100%
児 14	ゲームやインターネット利用について、家庭のルールを守っている。	83%	79%
保 13	ゲームやインターネット利用についての家庭のルールをつくっている。	70%	66%

保護者の達成度が低い。ノーゲームノーテレビ週間に全家庭でルール作りを行って取り組んだが、その時だけの取り組みになっているようである。家庭で相談して、ルール作りができたことはよかったと思う。強化週間だけでなく、毎月取り組み日を設ける等、意識づけを高める手立てを工夫していく。

(2) 地域環境や人材、施設を有効に活用した特色ある教育活動を進める。

教 12	地域での体験活動や交流活動に意欲的に取り組んでいる。	100%	100%
児 15	地域での体験や地域の人との交流は楽しく活動している。	95%	100%
保 14	学校は、地域の産業や自然、施設、人々とのかかわり合いを取り入れた学習を進めている	100%	100%

農業体験(田植え・稲刈り、大豆栽培)や森林体験、作業体験(竹筒筆立て、門松づくり)等、多くの活動で地域の方の協力により、意欲的な活動ができていることが、保護者の高い理解につながっている。また、活動後に学校だよりで実施内容や児童感想をお知らせしたことも保護者の理解につながっている。

今後も、積極的にグェスティーチャーを利用し、多くの人との関わりを持つての特色ある体験活動をすすめる。また、体験活動の様子について、学校だより、学年だよりで伝え、更なる保護者の理解・協力を得る努力をする。

2 より信頼される学校づくり

(1) 学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童生徒や保護者に対して丁寧な説明を行う。

教 10	児童生徒や保護者に対して、学習や学校生活の様子を丁寧に伝え、共通理解を図っている。	100%	100%
児 13	先生との面談やふりかえりにより、学習や生活のようすについて考えることができた。	87%	87%
保 12	個人懇談や通知表により、子どもの学習や生活の様子について詳しく知ることができた。	100%	97%

児童、保護者とも高い満足度となっている。学期末の懇談だけでなく、折に触れ連絡・報告に努め、情報共有を更に進めていく。

児童との面談については、定期的に時間をつくることと日常の関わりの中で会話時間を増やすよう努力する。

(2) ホームページや学校だより等で情報を発信し、学校と家庭、地域相互の情報交換に努める。

教 13	学校は、おたよりやホームページなどを通して、学校の情報を発信している。	100%	100%
保 15	ホームページやおたよりで子どもの様子がよく伝えられている。	100%	100%

保護者は、学校からの情報発信について高い満足度となっている。毎週のように校長編集の学校便りで、学校生活情報を届けてきたことが評価されている。

これからも、継続していくとともに、家庭、地域と学校を双方向的につなげる工夫にも努力していく。

*ホームページを見て、こんな事があったのかとか、わが子の写真を見て嬉しそうな顔やしかめっつらを見て楽しんでいます。ありがとうございます。